

令和6年度全国学力・学習状況調査
－相模原市の結果概要－

令和6年度全国学力・学習状況調査の本市の結果概要をお知らせします。本調査においては、小学校6年生・義務教育学校6年生及び中学校3年生・義務教育学校9年生に対し、教科調査、児童生徒質問調査が行われたほか、学校に対し、学校質問調査が行われました。

【調査の対象と教科調査の実施教科】

- 小学校6年生及び義務教育学校6年生 … 国語、算数
- 中学校3年生及び義務教育学校9年生 … 国語、数学

【教科調査の平均正答数と平均正答率】

令和6年度	公立小学校・義務教育学校前期課程				公立中学校・義務教育学校後期課程			
	国語		算数		国語		数学	
	14問		16問		15問		16問	
	正答数	正答率	正答数	正答率	正答数	正答率	正答数	正答率
	(問)	(%)	(問)	(%)	(問)	(%)	(問)	(%)
相模原市	9.4	67	10.0	63	8.8	59	8.3	52
神奈川県	9.4	67	10.2	64	8.8	59	8.7	54
全国	9.5	67.7	10.1	63.4	8.7	58.1	8.4	52.5
相模原市－全国	-0.1	-0.7	-0.1	-0.4	+0.1	+0.9	-0.1	-0.5

※ 本市及び神奈川県の平均正答率は整数値で示しています。

【本市の結果について】

全国と本市の平均正答数、平均正答率を比較すると、小学校・中学校ともに全国と同程度となっています。今後、本調査における教科調査と児童生徒質問調査の結果は、市ホームページで公表いたします。

調査結果は、さらに詳細に分析し、教師の指導改善や児童生徒の学習の充実に生かしていきます。

学力の向上に関する取組

- ・ 分析資料の作成、学校への提供
- ・ 授業づくりに関する研修の実施
- ・ 指導や支援を充実させるための人的配置
- ・ 基本的な生活習慣の確立や家庭学習習慣の定着に向けた取組の実施
- ・ 学校ごとの結果分析及びそれに基づく指導改善

お問合せ先
相模原市教育委員会
学校教育課
042-704-8918

詳細資料は国立教育政策研究所Webページをご覧ください。

<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>

令和6年度 全国学力・学習状況調査
教科調査(国語、算数・数学)の結果
【相模原市】



1 調査結果の概要

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
相模原市教育委員会	5,275	9.4 / 14	67	10.0	3.2
神奈川県(公立)	68,279	9.4 / 14	67	10.0	3.1
全国(公立)	947,364	9.5 / 14	67.7	10.0	3.1

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率 (%)			
			貴教育委員会	神奈川県 (公立)	全国 (公立)	
全体		14	67	67	67.7	
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	4	62.1	62.3	64.4
		(2) 情報の扱い方に関する事項	1	87.4	87.7	86.9
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	72.7	73.3	74.6
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	61.9	60.3	59.8
		B 書くこと	2	69.6	68.3	68.4
		C 読むこと	3	68.5	69.6	70.7
評価の観点	知識・技能	6	68.1	68.3	69.8	
	思考・判断・表現	8	66.3	65.8	66.0	
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	10	70.2	70.1	69.9	
	短答式	2	56.1	55.5	59.7	
	記述式	2	62.3	61.9	64.6	

【調査結果からわかる本市の状況】 ○比較的できている点 ●課題のある点

- 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解して使うことはできている。〔2ー(2)〕
- 目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに引き続き課題がある。〔2二〕
- 文の中における主語と述語との関係を捉えることに引き続き課題がある。〔3一〕

2 成果と課題

(1) 比較的できていた問題

○趣旨

情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる。

○問題

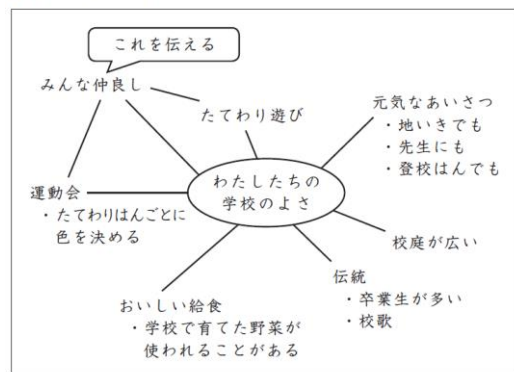
〔2〕ー(2)

高山さんの学級では、学校のよさを伝える文章を書くことにしました。高山さんは、学校のよさを考えながらメモを書き、文書に書くことを決めました。次は【高山さんのメモ】と【高山さんの考え】です。これを読んで、あとの問いに答えましょう。
【高山さんのメモ】の書き表し方を説明したものとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 出来事が起こった順に言葉を線でつないでいる。
- 2 中央の言葉と関係する言葉を線でつないでいる。
- 3 似ていることがらをまとめて丸で囲んでいる。
- 4 よい点と問題点を分けて丸で囲んでいる。

正答率:87.4%
(全国:86.9%)

【高山さんのメモ】



【高山さんの考え】

「たてわり遊び」と「運動会」は、どちらも1年生から6年生までが同じ「たてわりはん」で活動していて、みんなが仲良しになる。このことが学校の一番のよさだと思うから、文章に書こう。



高山さん

(2) 課題の見られた問題と学習のポイント

○趣旨

目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる。

○問題 2 二

正答率:57.3%
(全国:56.6%)

高山さんは、次の【高山さんの文章】の [] に、【高山さんの取材メモ】をもとにして考えた「たてわり遊び」のよさを書こうとしています。あなたが高山さんなら、[] に入る内容をどのように書きますか。あとの条件に合わせて書きましょう。

【高山さんの文章】

みんな仲良し「たてわりはん」

わたしたちの学校には、1年生から6年生までのメンバーが、同じはんで活動する「たてわりはん」の取り組みがあります。「運動会」や「たてわり遊び」を通して、ちがう学年の人とも仲良くなります。

「運動会」は、「たてわりはん」ごとに赤、青、黄の色を決め、3色対こうで行います。上級生が下級生に応えんの仕方を教えたり、下級生も楽しめるように、アきょうぎの作戦を考えたりします。「みんなでつな引きをして楽しい」という2年生や、「下級生といっしょに応えんして熱い気持ちになる」という5年生がいます。このように、「運動会」のよいところは、みんなの心が一つになるところだと思います。

「たてわり遊び」は、毎月1回、休み時間に「たてわりはん」で遊ぶ活動です。みんなが楽しめるように、6年生が、遊びたいことを下級生に聞いたり、ルールをくふうしたりします。例えば、ドッジボールでは、上級生が遠くからボールをイなげるようにしています。

【高山さんの取材メモ】

「たてわり遊び」について

6年生がくふうしていること

○遊びたいことを下級生に聞く

○ルールをくふうする

ドッジボール 上級生は遠くからボールをなげる

下級生に聞いたこと

○1年生 お兄さんやお姉さんと遊べて楽しかった

○3年生 好きな遊びや新しい友達が増えた

○4年生 みんなが楽しそうであれしかった

<条件>

○「たてわり遊び」のよさについて考えたことを書くこと。

○【高山さんの取材メモ】の下級生に聞いたことから言葉や文を取り上げて書くこと。

○六十字以上、百字以内にまとめて書くこと。

【正答例】

「お兄さんやお姉さんと遊べて楽しかった」という1年生や、「みんなが楽しそうであれしかった」という4年生がいます。このように、「たてわり遊び」のよいところは、学年をこえた交流ができるところだと思います。(100字)

【学習のポイント】

自分の考えが伝わりやすい文や文章を書くためには、何のために書くのか、誰に書くのかといった目的や意図に応じて、伝えたいことを明確にするようにしましょう。そのうえで、「事実」や「考え」を取り上げて書いたり、「事実」と「考え」とを区別して書くなど、書き表し方を工夫しましょう。

○趣旨

文の中における主語と述語との関係を捉えることができるかどうかをみる。

○問題 3 一

原さんは、【物語】の [] について、かがやいているのは何だろうと考えています。次の [] 部「かがやいています」の主語として適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

はらっぱじゅうの 1もやが、ひかりの雲にかわり、 2そして、そのまんなかで、オニグモじいさんの 3巢は、かぞえきれないほどたくさんの小さなお日さまでできているように、きらきら、きらきと、 4まぶしく かがやいています。

1 もやが

2 そして

3 巢は

4 まぶしく

正答率:59.4%
(全国:62.3%)

【学習のポイント】

伝えたいことを相手に正確に伝えるためには、主語と述語との関係を捉えることが大切です。日常的に主語が何かを意識して、文章を読んだり書いたりするようにしましょう。

1 調査結果の概要

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
相模原市教育委員会	5,276	10.0 / 16	63	11.0	4.0
神奈川県(公立)	68,293	10.2 / 16	64	11.0	4.0
全国(公立)	947,579	10.1 / 16	63.4	11.0	3.9

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率 (%)		
			貴教育委員会	神奈川県 (公立)	全国 (公立)
全体		16	63	64	63.4
学習指導要領の領域	A 数と計算	6	65.1	66.5	66.0
	B 図形	4	64.8	66.2	66.3
	C 測定	0			
	C 変化と関係	3	53.6	54.5	51.7
	D データの活用	4	60.5	62.0	61.8
評価の観点	知識・技能	9	71.6	73.0	72.8
	思考・判断・表現	7	51.2	52.5	51.4
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	5	74.3	75.8	75.3
	短答式	7	61.2	62.9	62.0
	記述式	4	50.8	51.1	51.0

【調査結果からわかる本市の状況】 ○比較的できている点 ●課題のある点

○直方体の見取り図について理解し、かくことはできている。〔3(1)〕

●球の直径と立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことに課題がある。〔3(3)〕

●速さの意味について理解することに課題がある。〔2(4)〕

2 成果と課題

(1) 比較的できていた問題

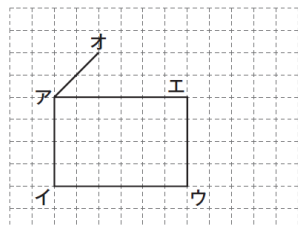
○趣旨

直方体の見取り図について理解し、かくことができるかどうかをみる。

○問題

3 (1) 直方体の見取り図を、方眼紙にかいています。

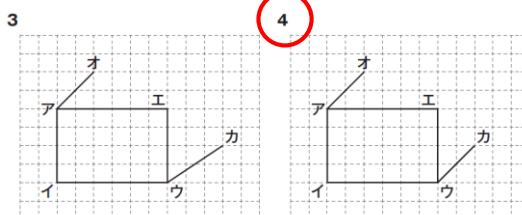
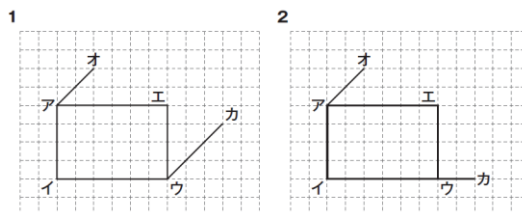
まず、下のように点アから点オまでを直方体の頂点として、かきました。



正答率:86.5%
(全国:85.5%)

次に、下の 1 から 4 のように、点力の位置を決めて、直方体の辺ウカをかこうとしています。辺ウカとして正しいものはどれですか。

下の 1 から 4 までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。



(2) 課題の見られた問題と学習のポイント

○趣旨

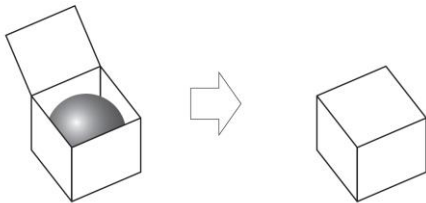
球の直径と立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる。

○問題

3 (3) 直径 22 cm の球の形をしたボールがあります。



このボールがぴったり入る立方体の形をした紙の箱の体積を調べます。



この立方体の形をした紙の箱の体積が何 cm^3 かを求める式を書きましょう。
ただし、紙の厚さは考えないものとします。また、計算の答えを書く必要はありません。

【正答例】
 $22 \times 22 \times 22$

正答率: 34.2%
(全国: 36.5%)

【学習のポイント】

「球の直径」や「立方体の一辺」など、図形を構成する要素に着目し、それらの関係を捉えられるようにすることが大切です。その上で、立方体の体積は、(一辺) \times (一辺) \times (一辺) で求められることから、式を $22 \times 22 \times 22$ と表現できるようにしましょう。

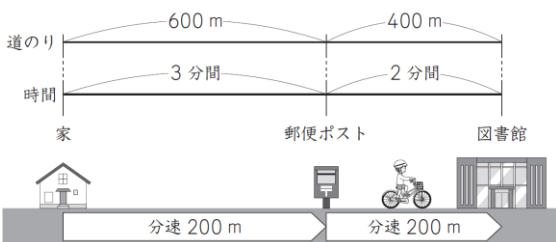
図形の構成要素を捉えられるようにするためには、ボールや箱の観察などを通して、球や立方体(立方体)の構成要素に対する理解を深めることが大切です。

○趣旨

速さの意味について理解しているかどうかをみる。

○問題

4 (4) たけるさんは自転車で、家から郵便ポストの前を通って図書館まで行きました。家から図書館まで、5分間かかりました。



家から郵便ポストまでは、道のりは 600 m で、3 分間かかり、速さは分速 200 m でした。

郵便ポストから図書館までは、道のりは 400 m で、2 分間かかり、速さは分速 200 m でした。

家から図書館までの自転車の速さは、分速何 m ですか。

答えを書きましょう。

【正答】
分速 200 m

正答率: 55.7%
(全国: 54.1%)

※ 22.4%の児童が、「分速400m」と解答

【学習のポイント】

「道のり」と「時間」が比例関係にあることを捉え、「速さ」が「単位量あたりの大きさ(割合)」を表す値であることを理解できるようにすることが大切です。この問題を使って学習する際には、家から図書館までの道のりは、 $600(\text{m}) + 400(\text{m}) = 1000(\text{m})$ であり、5分間かかったことから、家から図書館までの自転車の速さは $1000(\text{m}) \div 5(\text{分}) = 200(\text{m}/\text{分})$ であることを確認するとともに、家から図書館までの速さは、家から郵便ポストまでの速さ、郵便ポストから図書館までの速さと等しく、一定であることを捉えられるようにしましょう。

1 調査結果の概要

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
相模原市教育委員会	4,984	8.8 / 15	59	9.0	3.3
神奈川県(公立)	59,476	8.8 / 15	59	9.0	3.4
全国(公立)	875,574	8.7 / 15	58.1	9.0	3.4

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率 (%)			
			貴教育委員会	神奈川県 (公立)	全国 (公立)	
全体		15	59	59	58.1	
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	3	58.5	60.0	59.2
		(2) 情報の扱い方に関する事項	2	60.5	60.3	59.6
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	73.4	74.8	75.6
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	60.6	59.9	58.8
		B 書くこと	2	67.5	66.8	65.3
		C 読むこと	4	49.3	48.5	47.9
評価の観点	知識・技能	6	61.7	62.6	62.0	
	思考・判断・表現	9	57.1	56.4	55.4	
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	9	61.8	62.0	61.0	
	短答式	3	61.5	61.8	61.8	
	記述式	3	47.8	46.5	45.5	

【調査結果からわかる本市の状況】 ○比較的できている点 ●課題のある点

○目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることはできている。

〔3〕一

●目的に応じて必要な情報に着目して要約することに課題がある。〔2〕四

●文章の中で用いられている表現の技法について理解することに課題がある。〔4〕一

2 成果と課題

(1) 比較的できていた問題

○趣旨

目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる。

○問題 3 一

正答率:84.1%
(全国:81.4%)

佐藤さんは、国語の時間に、「体験をもとに、身近なものを登場人物にした物語を書く」という学習に取り組んでいます。次は、佐藤さんが構想をまとめた【ノートの一部】と【物語の下書き】です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

④③②①
次の出番への期待。

（各場面）で伝えたい「僕」の心情
忘れられるかもしれない不安。
久しぶりの出番で感じた喜び。

（物語を通して伝えたいこと）
紙の辞書を久しぶりに使って気付いたよさ。

（登場人物の設定）
・「僕」……紙の辞書。語り手。
・「君」……紙の辞書の持ち主（中学生）。

（もとにする体験）
H 小学生のとき、紙の辞書を机に置かれて困った。
I 使い始めた頃、紙の辞書の引き方が難しく困った。
J 最近ではオンライン辞書ばかり使っている。
・紙の辞書を久しぶりに使った。

ノートの一部

佐藤さんは、【ノートの一部】の<もとにする体験>に書いた情報の中から、「最近ではオンライン辞書ばかり使っている。」と「紙の辞書を久しぶりに使った。」を取り上げることにしました。その意図として最も適切なものを、次の1から4までのの中から一つ選びなさい。

- 物語の読み手に、紙の辞書を初めて手にしたときの気持ちがより明確に伝わるようにするため。
- 物語の読み手に、紙の辞書よりもオンライン辞書の方がよいことがより明確に伝わるようにするため。
- 物語の読み手に、紙の辞書を久しぶりに使って気付いたよさがより明確に伝わるようにするため。
- 物語の読み手に、紙の辞書の引き方が難しく困ったことがより明確に伝わるようにするため。

(2) 課題の見られた問題と学習のポイント

○趣旨

目的に応じて必要な情報に着目して要約することができるかどうかをみる。

○問題 2 四

そのいけきんたけ
(園池公毅『植物の形には意味がある』による。)
※文章の掲載は省いています。

【正答例】

ア
葉の形を表す言葉を、二次元的な形容のグループと三次元的な形容のグループに分け、前者には多様性、後者には共通性という特徴があると述べている。
イ
数学や物理学などは普遍性の学問、生物学は普遍的なことにも例外のある多様性の学問という違いがあると述べている。

正答率:45.0%
(全国:42.6%)

〈着目する内容〉

⑦
⑧

←選んだ(着目する内容)を塗りつぶさない。

※ 左の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

ア 筆者が、葉の形を表す言葉をどのようなグループに分け、各グループにどのような特徴があると述べているかについて。
イ 筆者が、数学や物理学などと生物学とでは、学問としてどのような違いがあると述べているかについて。

四 本文に書かれていることを理解するために、着目する内容を決めて要約します。次のア、イから一つ選んで(どちらを選んでもかまいません)。要約しなさい。
なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

【学習のポイント】

要約する力は生活の様々な場面で役立つものです。要約するためには、伝える相手や目的を意識し、必要な情報に着目して、文章の全体または部分を短くまとめることを意識しましょう。

○趣旨

表現の技法について理解しているかどうかをみる。

正答率:53.8%
(全国:54.9%)

○問題 4 一

田中さんは、国語の時間に、テーマを決めて短歌を集め、友達に紹介するための資料を作っています。次は、田中さんの【ノートの一部】です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

テーマ…月と風景

- A まどかなる黄月はいま昇りつつひとたび暮れし雪野を照らす ながさわいっさく 長澤一作
B 風さやか庭に月待つ萩すすき ひぐらし 蝸の声やみし夕暮れ ほかそのたかし 外園隆
C 朝光のひろびろしきに あさかげ 昨夜のつきかけありしあたりを掃きぬ もりおかさだか 森岡貞香

Bの短歌で用いられている表現の技法を説明したものとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 「風さやか」に部分に、擬人法が用いられている。
- 2 「庭に月待つ」の部分に、直喩が用いられている。
- 3 「萩すすき」の部分に、倒置が用いられている。
- ④ 「蝸の声やみし夕暮れ」の部分に、体言止めが用いられている。

【学習のポイント】

「擬人法」、「比喩」、「倒置」、「体言止め」などが、どのような特徴をもつ表現の技法なのかを名称と結び付けて確認し、学習で使えるようにしましょう。

1 調査結果の概要

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
相模原市教育委員会	4,983	8.3 / 16	52	8.0	4.2
神奈川県(公立)	59,531	8.7 / 16	54	9.0	4.2
全国(公立)	875,952	8.4 / 16	52.5	8.0	4.1

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率 (%)		
			貴教育委員会	神奈川県 (公立)	全国 (公立)
全体		16	52	54	52.5
学習指導要領の領域	A 数と式	5	51.5	54.3	51.1
	B 図形	3	41.7	42.5	40.3
	C 関数	4	60.3	61.8	60.7
	D データの活用	4	52.1	55.6	55.5
評価の観点	知識・技能	11	62.3	64.6	63.1
	思考・判断・表現	5	29.4	31.6	29.3
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	5	57.4	58.8	58.5
	短答式	6	66.4	69.4	67.0
	記述式	5	29.4	31.6	29.3

【調査結果からわかる本市の状況】 ○比較的できている点 ●課題のある点

- 直線のグラフと y 軸との交点を事象に即して解釈することはできている。〔8(1)〕
- 連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すことに課題がある。〔1〕
- 箱ひげ図を比較してデータの分布の傾向を読み取り、判断の理由を説明することに課題がある。〔7(2)〕

2 成果と課題

(1) 比較的できていた問題

○趣旨

二つのグラフにおける y 軸との交点について、事象に即して解釈することができるかどうかをみる。

○問題

- 8 第一中学校の文化祭では、会場の体育館を暖めるために、灯油を燃料とする大型のストーブを設置します。文化祭当日は、体育館を6時間使用します。文化祭の実行委員の結衣さんは、18 Lの灯油が入ったストーブの使用計画を立てることになりました。ストーブの説明書には、次の情報が書かれています。

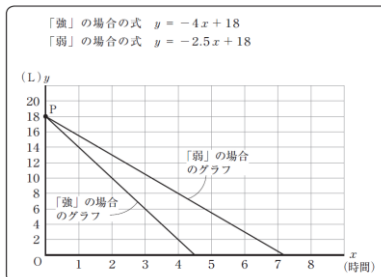
説明書の情報

ストーブの設定	強	弱
1時間あたりの灯油使用量(L)	4.0	2.5

結衣さんは、ストーブを6時間使用して、18 Lの灯油をちょうど使い切るように、「強」と「弱」の設定の組み合わせを考えたことになりました。そのために、18 Lの灯油が入ったストーブの「強」の場合と「弱」の場合について、ストーブの使用時間と灯油の残量の関係を調べることにしました。

そこで、結衣さんは、説明書の情報の1時間あたりの灯油使用量は常に一定であるとし、ストーブを使用し始めてから x 時間経過したときの灯油の残量を y Lとして、「強」の場合と「弱」の場合の x と y の関係をそれぞれ $y = 18 - 4x$ 、 $y = 18 - 2.5x$ と表しました。そして、この2つの式をそれぞれ $y = -4x + 18$ 、 $y = -2.5x + 18$ と表し直し、次のページのようなグラフをかきました。

ストーブの使用時間と灯油の残量



正答率:83.5%
(全国:83.4%)

次の(1)から(3)までの各問いに答えなさい。

- (1) ストーブの使用時間と灯油の残量の「強」の場合と「弱」の場合のグラフは、どちらも点Pで y 軸と交わっています。点Pの y 座標の値は、何を表していますか。下のアからエまでの中から正しいものを1つ選びなさい。

- ア ストーブを使用し始めるときの灯油の残量
- イ ストーブを使用し始めるときの時間
- ウ 「強」の場合のストーブの1時間あたりの灯油使用量
- エ 「弱」の場合のストーブの1時間あたりの灯油使用量

(2) 課題の見られた問題と学習のポイント

○趣旨

連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる。

○問題

- 1 連続する2つの偶数を、文字を用いた式で表します。 n を整数とするとき、連続する2つの偶数を、それぞれ n を用いた式で表しなさい。

【正答例】
 $2n, 2n+2$

正答率:39.2%
(全国:34.8%)

【学習のポイント】

-2、0、2、4、6、…と、偶数は無限に存在しますが、 n を整数とした場合、「 $2n$ 」と表現することで、すべての偶数を表せることを理解することが大切です。その上で、連続する二つの偶数とは「4、6」、「10、12」のように、ある偶数とその偶数に2を加えた数であること（「4、 $4+2$ 」、「10、 $10+2$ 」）を確認し、連続する二つの偶数を「 $2n, 2n+2$ 」などと表現できるようにしましょう。

○趣旨

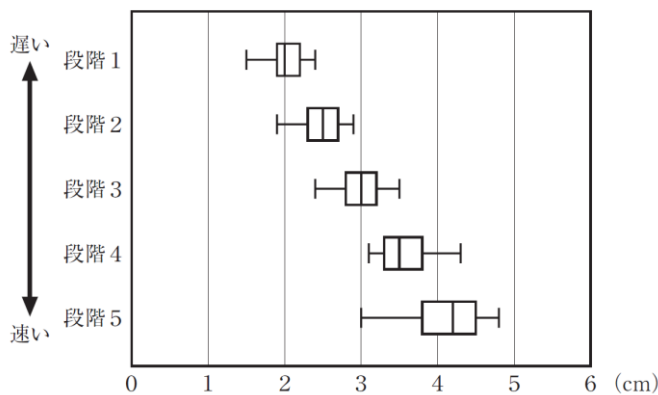
複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる。

○問題

- 7
(2) 咲希さんは、車型ロボットの速さを変えたときに、10 cmの位置から進んだ距離がどうなるか調べることにしました。そこで、速さを段階1から段階5まで変えて、10 cmの位置から進んだ距離をそれぞれ20回ずつ調べ、データを集めました。そして、データの分布の傾向を比較するために箱ひげ図に表しました。

前ページの10 cmの位置から進んだ距離の分布から、「速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、10 cmの位置から進んだ距離が長くなる傾向にある」と主張することができます。そのように主張することができる理由を、10 cmの位置から進んだ距離の分布の5つの箱ひげ図を比較して説明します。下の説明を完成しなさい。

10 cmの位置から進んだ距離の分布



説明

したがって、速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、10 cmの位置から進んだ距離が長くなる傾向にある。

【正答例】
速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、箱ひげ図の箱の位置が右側にずれていっている。

正答率:25.7%
(全国:25.9%)

【学習のポイント】

箱ひげ図を基にデータの分布の傾向を比べる際には、箱ひげ図の「箱の位置」に着目することが大切です。「箱ひげ図の箱の中」には、すべてのデータの約半数が含まれることから、箱の位置に着目することで、データ全体の分布の傾向を捉えられることを理解しましょう。その上で、どのような傾向があるといえるのかを見だし、「箱の位置」を根拠にして説明ができるようにすることが大切です。